

An aerial photograph showing a dam structure across a river. The water is turbulent and white with foam as it flows over the dam. To the right of the dam is a concrete road that curves around the riverbank. In the background, there are some houses and a larger road. The text 'ナミノバロード大作戦' is overlaid in the center of the image.

ナミノバロード大作戦

河川敷は対岸の山の風景が雄大で美しい一方で、歩き続けるのには単調であきてしまう。
利用者が少ない状態である。



古民家をリノベーションし
集落の人と、よそから訪問した
人が使える場所にしたい。



立派な古民家と、
風情のある散歩道



ドッグランを併設し、
古民家を再生したカフェ



集落を流れる水路
村人が順番に掃除をしている
洗濯場にもなっている

戦略

1. 離れているポイントを繋ぎ点を線にし, 更には面にする視点が必要
2. 人が目的地に歩こうとするには視点場と景観対象の連続性と, 移動そのものの楽しさが必要
3. 地元住民との交流を行うと共に対岸の住民をも巻き込む構想が必要
4. 段階的に拡大していく

ナミノバロード・ビジョン: ナミノバエリア全体の回遊性, 連携性向上



提案①:道の駅「禅の里」の活用

そもそもナミノバって何？ フリースタイルカヤックってどんなの？ 自分(地元民)には関係ないよ

→ 活動の活性化・継続には地元民の理解・協力は必要不可欠

地元民への周知をしつつ、活動への理解・協力を得るにはどうしたらいいか

地元の方にナミノバを知ってもらほしい！ → どうやって？

キーポイントは道の駅 → 地元住民(農家・生産者⇔地元高齢者)が集まる場所

駅に新たな価値「地元とヨソモノが交流する場」

駅内にナミノバのためのブースを分けていただき、ナミノバを地元住民に知ってもらう拠点とする

たまたま駅に来場する人にもアピール → カヤックボートを活用した足湯を整備

提案②:天端道路の利用(自動走行バスと歩行者の共存)

九頭竜川を眺めながら道の駅「禅の里」～「ナミノバ」間を結ぶ自動走行のバスを整備しつつ、歩行者が川沿いを歩ける散歩導線とする。

【懸案事項】

- ・天端道路の利用は歩行者等との共有となるため幅員の確保が必要となる。
- ・自動走行を可能にするために初期費用が必要なる。

提案③: 中州の利用

九頭竜川には大きな中州が存在 → 有効に活用したい

○大きな3つの中洲にアートを設置

ナミノバロードにインスタ映えスポットが誕生

○ナミノバ隣接の中洲でのグランピング体験

360°川の音に包まれた特別な宿泊体験

○中州や水面にライトアップやプロジェクションマッピングを投影

【懸案事項】

- ・中州にアートなどを置くことやグランピング施設を整備することは可能なのか。
- ・夜間に人が集まることによる近隣住民への影響。

提案④: 中島集落との連携

- 風情がある歴史的集落を楽しむ散歩道として利用
- 越前竹原駅とナミノバ間の路線に数多くの古民家がある.
地元の方とともに古民家リノベーションの意見交換を実施.
地元 × ヨソモノ の憩いの場を創出したい.

例: 古民家再生によるドックランカフェが好評をはくしている

- ・ 県内外の愛犬家(ヨソモノ)
- ・ 地元の方から、夜のバー営業の要望を実現予定

【懸案事項】

あくまで主役は地元 いかに関心を共有できるか！？

提案⑥: 対岸の坂東島エリア(勝山市)との連携

- ・九頭竜川の左右岸をジップラインを設置し、既存の橋梁を含めた円的な整備を進める。
- ・織り小屋をリノベーションし、クラフト体験やアーティストレジデンス施設として活用する。
- ・湧水と水路のネットワークなどの

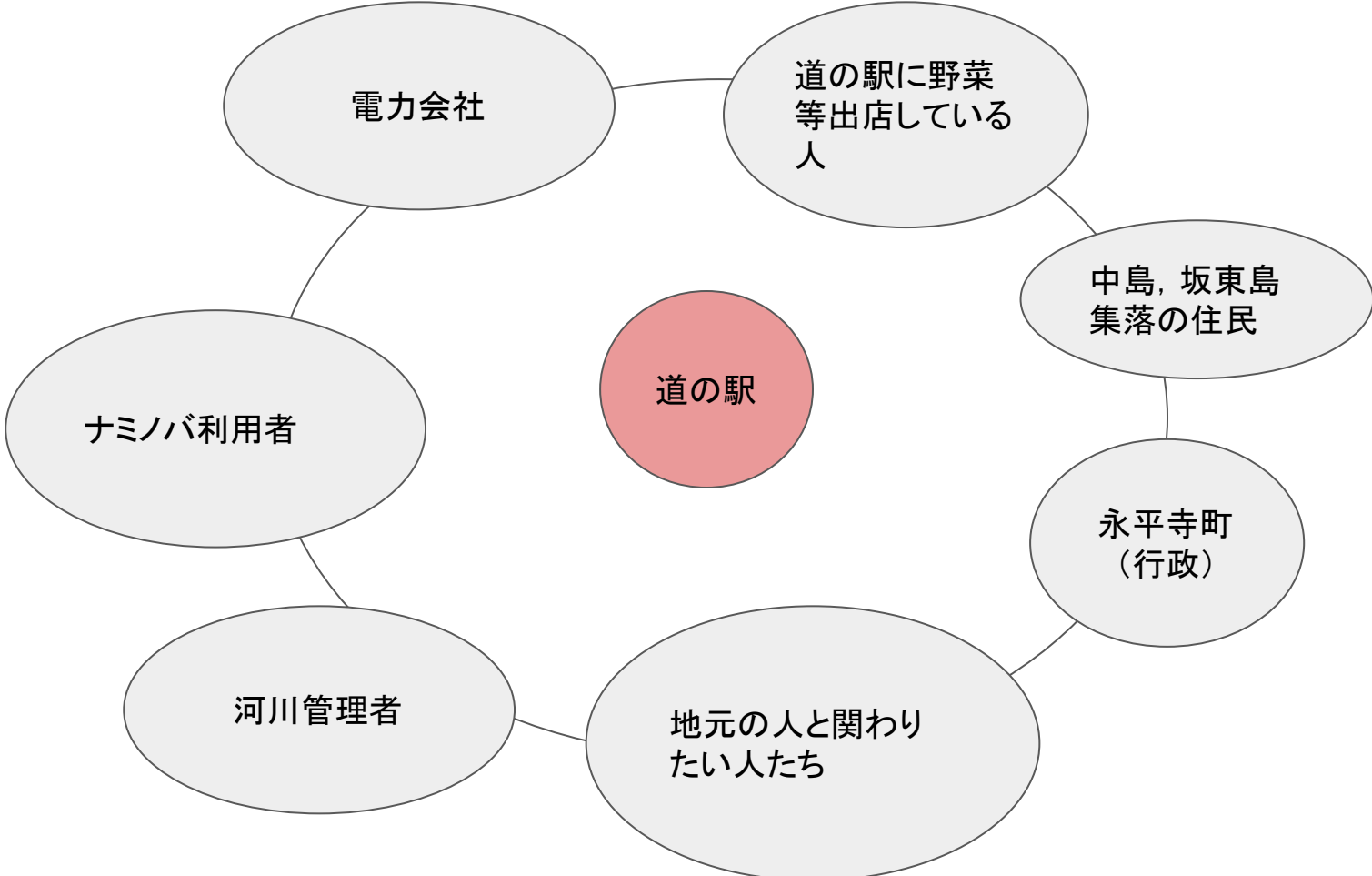
集落の水の利用について学ぶ。体験ツアーなど

【懸案事項】

- ・施設を整備することによる景観への影響。
- ・福井県も含めて市町の境界を超えた協力。



連携すべきパートナー



電力会社

道の駅に野菜
等出店している
人

中島, 坂東島
集落の住民

道の駅

永平寺町
(行政)

地元の人と関わり
たい人たち

河川管理者

ナミノバ利用者